第7回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1997年1月31日（金）10：30～
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員
 （事務局等）加藤原子力局長
 林政策課長、村田原子力調査室長
 池本専門委員
 泉核燃料課長
 木村動力炉開発課長
 有本廃棄物政策課長
 政策課 山野
 動力炉開発課 倉崎
 原子力産業課 土井、能登
 原子力調査室 松尾、新井

4. 議 題

- (1) 高速増殖炉懇談会の設置について
- (2) 当面の核燃料サイクルの具体的な施策について
- (3) その他

5. 配布資料

- (1) 高速増殖炉懇談会の設置について（案）
- (2) 当面の核燃料サイクルの具体的な施策について（案）

6. 審議事項

- (1) 高速増殖炉懇談会の設置について
 標記の件について、事務局より資料1に基づき説明があり、審議した結果、
 原案のとおり「高速増殖炉懇談会の設置について」が決定された。
- (2) 当面の核燃料サイクルの具体的な施策について
 標記の件について、資料2に基づき審議が行われ、委員より、
 ・ 21世紀はリサイクル社会。この意味からも核燃料リサイクルの確立が必要
 不可欠。長期的かつグローバルな視点に立って事業者と研究開発主体が連携を
 とりつつ、プルトニウムの軽水炉利用や高速増殖炉開発などについて、それぞ

れの役割を果たしていくことが重要。

・長期的展望に立てば、大量消費の使い捨て社会からの脱却を目指していくため、核燃料サイクルの円滑な展開は不可欠。総合エネルギー調査会原子力部会の検討は、原子力開発利用長期計画の基本方針の上に立ち、現実の状況変化を踏まえて施策を具体化したもの。この具体策の実施に最大限の努力をしていくことが必要。

・21世紀に向けて原子力発電は不可欠であり、関係省庁、事業者は、今般の委員会決定に沿って、それぞれ努力してほしい。

等の意見が出された。その後、原案のとおり「当面の核燃料サイクルの具体的な施策について」が決定されるとともに、内閣総理大臣あて報告することとした。

なお、本議題に関する議事については、第4回原子力委員会定例会議での決定に基づき、報道関係者に公開された。